

令和元年度 学校評価総括表 伊丹市立伊丹高等学校

教育目標	人格の完成を目指して知・徳・体の調和を図り、平和的な国家及び社会の形成者として資質の向上に努め、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。 ①自立の精神を養い、正しい判断力と実践力の育成を図る。②豊かな情操の育成と基本的な生活習慣の確立を図る。③学習意欲を向上させ、生徒個々に応じた学力を伸長する。
重点目標	“学びのフロンティアへの挑戦”伸びる力をより伸ばす市高教育の実践 ～グローバル人材育成プロジェクトの発展をめざして～ 市高の目指す5つの“学びのフロンティア” (1) グローバル人材の育成に向けた多様な取組の充実と推進 (2) 主体的・対話的で深い学びの上に立つ、探究力と自己教育力の育成 (3) 自己実現を目指し、より良く生きるためのキャリア教育の推進 (4) 地域を理解し、交流を通して地域に貢献できる人材の育成 (5) 小学校、中学校、特別支援学校等との学校間連携の強化(学びの継続性)

※ 自己評価のABCDについては、教員評価のaを5点、bを4点、cを2点、dを1点とし、5点満点で平均、A:4.0以上 B:3.0～4.0 C:2.0～3.0 D:1.0～2.0と表示している

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	H30 自己評価	R1 自己評価	成果と課題・改善策	
学力の向上	生徒一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	・個々に応じた教育と指導形態の工夫を行う。 ・基礎基本を徹底し、学習習慣を身につけさせる ・授業改善に取り組む。	・先生は教え方に工夫をしていますか(生徒アンケート評価A・B)を70%以上にする。 ・習熟度別指導、チームティーチングなどを展開 ・「授業に満足していますか(生徒アンケート評価A・B)を60%以上にする。	A 4.0 教員評価 a: 19.6% b: 68.6% c: 11.8%	B 3.9 教員評価 a: 14.6% b: 73.2% c: 12.2%	・授業に対する満足度について、満足していない生徒との対話を深め、より満足される授業を提供するとともに、生徒の信頼を得るよう努める。 ・授業公開によって他の教員の授業見学を行い、授業改善につなげた。	
	新たな社会への対応力を育む教育の推進	・各学年との連携を密にし、情報交換に努め、要望に応じた適切な情報提供に努める。 ・大学入試改革における情報収集・情報提供を行う。 ・新学習指導要領導入に向けた準備を進める。 ・校務支援システムの研究を行う。	・各学年2回以上進路講演会・ガイダンスを行う。 ・担任は各学期1回以上進路面談、進路部は希望生徒に進路面談を実施する。 職員及び当該学年生徒へ大学入試改革説明会を年間複数回行う。 新学習指導要領導入に向け準備を進める。 ・校務支援システム導入に向けた	B 3.9 教員評価 a: 19.6% b: 66.7% c: 13.7% d: 0%	B 3.9 教員評価 a: 4.9% b: 85.4% c: 9.8% d: 0%	・各学年2回以上の進路講演会・進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の向上、進路選択に役立てることができた。今後は受験の早期化に伴い、実施時期を検討し、より効果的なものにする必要がある。 ・7月、12月、1月に個別進路検討会を実施し、進路指導に関して、情報共有を行った。会の進め方等は今後の課題である。 ・2020年の大学入試改革を見据えた大学入試改革説明会を複数回実施することができた。今後は、他部署と協力しながら学校全体として行う必要がある。 ・新指導要領導入に向けた研修を複数回行った。 ・校務支援システムについて、予算などの関係もあり導入について不透明な部分が多い。	
	進路目標の確定と学習習慣の定着	・進路実現のために必要な力の伸長が図られるように指導・支援を行う。 ・新学習指導要領導入に向けた準備を進める。 ・校務支援システムの研究を行う。	・生徒アンケート7「学校の進路指導に関する体制について、満足していますか。」の割合をAB合計で80%以上にする。 ・「きめ細やかな面談を実施し、生徒等が納得できる進路実現を図る。 ・トワイライト講座を実施する。	A 4.1 教員評価 a: 25.5% b: 66.7% c: 7.8% d: 0%	A 4.0 教員評価 a: 19.5% b: 70.7% c: 9.8% d: 0%	・生徒アンケート7「学校の進路指導に関する体制について、満足していますか。」の割合がAB合計で86%であった。 ・生徒アンケート7がAB合計で80%以上ではあったが、Aの割合が多くなるようにする必要がある。	
	進路目標の確定と学習習慣の定着	・イノベーションボードの創造 ・利用しやすい進路指導室にして利用頻度を上げる。 ・生徒向けの進路講演会や進路ガイダンス等を通し生徒に適切な情報提供を行う。 ・学年・進路通信発行によりの確かつ迅速な情報発信を行う	・生徒アンケート8「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・出願に向けて個別検討会を複数回実施し、その結果に基づいた適切な指導を随時行う。 ・学年通信1回発行。	B 3.5 教員評価 a: 16% b: 52% c: 32% d: 0%	B 3.9 教員評価 a: 14.6% b: 70.7% c: 14.6% d: 0%	・生徒アンケート8について、AB合計83%であった。入学後すぐのオリエンテーション合宿でのイノベーションボード創りで、高校3年間を自らの手でデザインし卒業後の自分をイメージさせた。 ・学年通信および進路通信の発行や個別面談により、出願に関するトラブルを軽減できた。 ・生徒アンケート8に関して、AB合計80%以上であった。大学見学会やオープンキャンパスの参加を通して進路決定に向けて具体的にイメージさせ、目標とさせることを図った。	
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む教育	・担任を除く全職員を登校指導に割り当てる。 ・遅刻、服装、挨拶指導を強化する。 ・自転車マナー講習会を年度当初に行う ・挨拶・言葉遣いなどの基本的な生活習慣を確立する。	・登下校時の自転車事故を0に ・風紀面で注意される生徒を2%以下にする。 ・自ら挨拶ができる生徒を50%以上挨拶をされればしっかりと返す生徒を100%にする ・生徒アンケート10「キッチンと挨拶できていますか」の割合を80%にする ・生徒アンケートで「朝や授業において遅刻していませんか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケートで「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか」の割合をAB合計90%以上にする。	B 3.8 教員評価 a: 23.5% b: 56.9% c: 19.6% d: 0%	B 3.7 教員評価 a: 14.6% b: 61% c: 24.4% d: 0%	・登校指導で多くの職員が門に出ているので、生徒の様子を把握する上では必要で有り、継続して行いたい。 ・自転車マナー講習会を行っているが、事故や苦情は減っていない。講演会は継続して行い、事故や苦情などの連絡が入れば、速やかに学年へ情報を流し、指導ができるように継続する。	
	豊かな心を育む教育	・生徒の内面の理解を深め、「こころの教育」の充実を図る	・スマホ・携帯電話マナー講演会を全学年で実施 ・いじめ実態把握アンケート年に3回実施 ・教育相談の実施や保健部、カウンセラー、いじめ対応チーム等との連携 ・個別面談を実施する。 ・人権教育、ホームルーム活動を通して、個性の尊重・コミュニケーションの大切さを理解させる。	・いじめ実態把握アンケート、教育相談などからいじめが発見されれば早急に情報共有し対応 ・生徒の微妙な変化に気付くために挨拶を増やし生徒とのコミュニケーションを積極的に図る。 ・生徒アンケートで「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていると思いますか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・生徒アンケート13「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっていますか」の割合を80%以上にする。	B 3.9 教員評価 a: 19.2% b: 65.4% c: 15.4% d: 0%	B 3.7 教員評価 a: 4.9% b: 75.6% c: 19.5% d: 0%	・スマホの活用について、生活習慣の改善を促す指導が引き続き必要である。 ・講演会等でスマホ・携帯電話の利用について学習しているが、トラブルや依存等の問題は継続して指導していく必要がある。 ・生徒からの相談や悩み事が話しやすい環境になるよう、全職員で生徒への配慮ある対応に努めたい。 ・支援の必要がある生徒や保健室利用頻度の高い生徒について、職員全体で連携して指導を行った。 ・必要に応じてスクールソーシャルワーカーとも連携を図りたい。
	豊かな心を育む教育	・生徒の内面的な理解を深めるため、健康相談および教育相談を充実させる。(保健部)	・心の健康面に問題を持った生徒を早期発見し、関係分掌と連携し対策に努める。 ・スクールカウンセラーによる教育相談を一層充実したものにす。	・日常的に生徒の健康管理に努め、問題生徒のケアに努める。 ・保健部会において生徒状況の十分な情報交換に努める。 ・スクールカウンセラー・学年・担任・養護教諭と連携した協力体制を築き、職員全体での対応を図る。	A 4.1 教員評価 a: 25.5% b: 64.7% c: 9.8% d: 0%	A 4.0 教員評価 a: 15% b: 77.5% c: 7.5% d: 0%	・生徒の健康管理や支援の必要な生徒のケアに努めた。 ・保健部において、生徒の状態など情報交換に努めた。特に心の問題については、早期発見に努め、教育相談を勧めるなど解決策を探った。 ・生徒からの相談や悩み事が話しやすい環境になるよう、全職員で生徒への配慮ある対応に努めたい。 ・支援の必要がある生徒や保健室利用頻度の高い生徒について、職員全体で連携して指導を行った。 ・必要に応じてスクールソーシャルワーカーとも連携を図りたい。
	豊かな心を育む教育	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・8時20分前から「朝学習」を実施する。 ・遅刻者をなくし、余裕をもった行動を促す。	・生徒アンケート12「朝や授業において、遅刻はしていませんか。(余裕をもった行動ができていますか。)」の割合をAB合計90%以上にする。	A 4.1 教員評価 a: 25% b: 65.4% c: 9.6% d: 0%	A 4.0 教員評価 a: 19.5% b: 68.3% c: 12.2% d: 0%	・生徒アンケート12について、AB合計90%であった。学年団の取り組みにより8時20分に登校させ朝学習を実施した。 ・遅刻が多い生徒については、保護者との面談で改善に努めている。進路実現に向けて自己管理ができるよう指導していきたい。
豊かな心を育む教育	・服装・頭髪の乱れをなくし、規範意識を高める。	・生徒アンケート11「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか。」の割合をAB合計90%以上にする。	・生徒アンケート11「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか。」の割合をAB合計90%以上にする。	A 4.4 教員評価 a: 43.1% b: 52.9% c: 3.9% d: 0%	A 4.3 教員評価 a: 31.7% b: 68.3% c: 0% d: 0%	・生徒アンケート11について、AB合計99%であった。引き続き、生徒が自律できるよう、自分をしっかり見つめ考えさせていく。 ・保護者との連携を密にし、規範意識をさらに高めたい。	

生徒の健やかな体づくりの推進	11	・自分自身の生活習慣や心身の状態に気づき、健康的な生活習慣の大切さを知り、健康問題を自ら解決していく態度を育てる。	・生徒保健委員会の自主的な活動を援助し、生徒の健康に関する興味・関心を高める。 ・保健委員の指導や保健だよりを発行し、健康に関する意識の啓発に努める。 ・流行性の病気予防への対応を図る	・文化祭・体育祭等の学校行事・保健行事ごとの保健委員会の活動を促す。 ・「保健だより」、行事ごとに生徒による「保健委員会だより」を発行する。 ・手洗い場所へ石けんを配置し、手洗いうがいの呼びかけ、手洗いの意識を高めるなど、病気予防のための環境整備に努める。	<b>A</b> 4.3 教員評価 a: 36.5% b: 59.6% c: 3.8% d: 0%	<b>A</b> 4.2 教員評価 a: 26.8% b: 68.3% c: 4.9% d: 0%	・学校行事、保健行事では、保健委員会が活発に活動を行った。 ・「保健だより」「保健委員会だより」の発行、掲示板の活用などで健康に関する意識向上に努めた。 ・病気予防のための環境整備として、温度湿度計、消毒液の設置や換気の呼びかけなども行った。 ・年3回の保健講演会を行い健全な生活について意識を向けることができた。(性教育1年・DV防止2年・薬物乱用防止1,2年) ・ケガや熱中症に関する事故防止、予防には引き続き留意していきたい。	
	人権教育の推進	12	・人権教育を通し現代社会の様々な問題を考察し、人権意識を磨く。他者の人権も配慮できる人間形成を目指す。 ・他者への敬意を持ち、個性を認め合うことで様々な人間が共生できる多様性社会実現に向け努力する	・担当者が使いやすい教案の作成 ・効果的な視聴覚教材の導入 ・専門家によるわかりやすい講演の依頼	・人権教育の総論的な研修の実施。 ・グローバル社会をふまえたSOGI、ジェンダーに関する教案作成。 ・超高齢化社会をふまえた教案作成。	<b>B</b> 3.9 教員評価 a: 25.5% b: 56.9% c: 17.6% d: 0%	<b>A</b> 4.0 教員評価 a: 24.4% b: 65.9% c: 9.8% d: 0%	・伊丹市人権教育部より職員研修を実施して頂いた。 ・超高齢社会教案にエイジズムのコンセプトを取り入れた。 ・LGBT教案にSOGIのコンセプトを取り入れた。 ・兵庫県人権啓発協会、法務省人権擁護局制作の教材を活用した。 ・伊丹市人権教育指導員に講演して頂いた。 ・担当者が使いやすい教案を整えていく。 ・学校全体で人権意識をしっかりと持てるよう留意する。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	13	・HP、刊行物、学校説明会などを活用し、学校の情報を保護者や地域に発信する。	・HPの内容充実し更新回数を増やす。 ・学校説明会を年3回以上行い、自校の特色理解を深める。また参加申込を簡略化。学校案内の作成、Active!chjkoの定期的な発行	・HPの内容更新のスピード化と視覚的向上を図る。 ・学校説明会参加者アンケートの満足度を90%以上にする。	<b>B</b> 3.8 教員評価 a: 12% b: 74% c: 14% d: 0%	<b>B</b> 3.3 教員評価 a: 4.9% b: 56.1% c: 39% d: 0%	・HPの更新についてスピード化を進めたい。更なる内容の充実、視覚向上を図りたい。
	探究活動の充実	14	・事業の精選と活性化を図る。探究活動等の取組について検討する。	・学年と連携をとり探究活動を活性化を図る。 ・オーストラリア語学研修、留学受け入れ「ビタテ」留学JAPAN等の国際理解教育の活性化を図る。	・オーストラリア語学研修希望者を30名以上に上げる。 ・「ビタテ」留学Japan説明会に30名以上に上げる。	<b>A</b> 4.2 教員評価 a: 29.4% b: 64.7% c: 5.9% d: 0%	<b>A</b> 4.2 教員評価 a: 17.5% b: 82.5% c: 0% d: 0%	・探究活動については、系統だった指導を行えることが出来るようになった。今後はSDGsなどを取り入れを検討したい。 ・オーストラリア語学研修希望者30名を超え目標を達成した。 ・「ビタテ」留学Japan説明会の参加者も保護者を含め30名を超えることが出来た。
特色ある学校づくり	GCコースの活性化	15	・高い英語力の育成だけでなく柔軟性やチャレンジ精神を伸ばし、難関大学への進学率を向上させる。	・国立大学をはじめ、大学見学会を進路指導部と連携して実施する。 ・English Camp・English Seminarを通して、オープンマインドを目指す。 ・英語検定取得に向けてALTを活用しながら面接指導などの取り組みを強化する	・進学実績の上昇を目指す。 ・卒業時までに英検2級取得率80%以上を目指す。 ・卒業時までに英検準2級取得100%を目指す。	<b>B</b> 3.5 教員評価 a: 10.2% b: 61.2% c: 28.6% d: 0%	<b>B</b> 3.3 教員評価 a: 5.4% b: 59.5% c: 32.4% d: 2.7%	・大阪大学、関西大学への見学会を実施した。今後も進路指導部と連携し、大学見学会を通して進路意識を高めていきたい。 ・English Camp、English Summer Seminarともに生徒の印象はよく、授業では学べないことが学べた。今後も継続していきたい。 ・英検については、学校設定科目のみならず、様々な英語授業において4技能を伸ばしていきたい。
		16	・さらなる特色化に向けて継続的な検討を行う。	・Global Studyにおいて他分野の講師を招き、講演回数を増やす。 ・京都語学実習・GCジョイント・English Camp・English Seminarを実施する。 ・他校国際科との情報交換を通して行事の実施方法・特色化を探る。	・各学期に1回の講演を実施する。 ・京都語学実習・GCジョイント・English Camp・English Seminarの満足度を100%にする。 ・他校の研究授業、研修への職員の参加回数を増やす。	<b>B</b> 3.9 教員評価 a: 18.4% b: 67.3% c: 14.3% d: 0%	<b>B</b> 3.7 教員評価 a: 10.3% b: 71.8% c: 17.9% d: 0%	・Global Study特別授業については、今年度は5回実施できた。今後も充実させ、様々な分野の講師を招いていきたい。 ・京都語学実習の実施時期を見直したい。
	商業科の活性化	17	・主体的・対話的で深い学びによるキャリア教育の充実を図り、正しい職業観・労働観を身に付けさせる。 ・検定試験合格に向けて組織的に取り組む	・商店経営実習や文化祭、オープン・ハイスクールなどの各種行事を生徒が企画し、運営する。高大連携や外部講師を招いて講演会を実施し、専門的な学びを深める。 ・英語、情報処理、簿記などの検定試験対策講座を行う。	・商店経営実習として9月に「言の葉カフェ」を実施、10月の商業科オープン・ハイスクールでは、生徒が体験授業等の内容について企画・運営する。 ・大学教授や外部講師を招き講演会を実施する ・外部講師による全商英検講座を実施、夏・冬の簿記、情報処理検定の級別補習を組織的に10日間以上行う。	<b>A</b> 4.0 教員評価 a: 18% b: 74% c: 8% d: 0%	<b>A</b> 4.1 教員評価 a: 12.8% b: 84.6% c: 2.6% d: 0%	・商店経営実習は天候に恵まれ昨年より多く集客できた。お客様が想定より多く、接客に戸惑うこともあり、柔軟な対応ができるよう訓練しておくことが次の課題であると感じた。 ・オープン・ハイスクールでは2年生が中心となり運営を担当した。中学生のおおむね好評をいただいた。 ・夏季学習会中に司法書士の先生に「契約について」、クレジット協会の先生に「電子マネー」について講演いただいた。現代の経済社会にマッチした講演を聞くことができた。 ・7月にカフェの経営者を招き、商店経営実習に向けてワークショップを開催した。プロから学んだノウハウを実習で活かす事ができた。 ・予備校講師による英検対策講座と本講教員による各種検定補習を計画的に実施する事ができた。合格率平均が全国平均を少し下回るので中身の改善を考えていきたい。

令和元年度の自己評価のグラフ 自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った

